

## 令和元年度東京都立つばさ総合高等学校経営報告

### 1 今年度の取組と自己評価

#### (1) 教育活動への取組と自己評価

##### ① 学習指導

「学力向上推進プラン」の着実な実行と自学習習慣の定着により、基礎基本の徹底と学力の伸長を図った。朝学習の発展、小テスト・宿題・課題の頻出、夏期講習・補習等の充実に努めた。特に、夏季休業中などに、国・数・英・理・社・美術・家庭を中心に、2～14時間の補習・講習を実施した。また、一昨年度よりオンライン学習システムを導入したこともあり、スタディーサポートの結果では、学力は英語をはじめとして上昇傾向であり、自学習時間も増加傾向にある。生徒による授業評価においては、授業満足度は高いが、予習・復習が十分でない状況も明らかになった。全校生徒が「漢字検定」及び「英語GTECテスト」を受験し資格取得・検定合格への意欲を高めた。

3年次（第16期生）は、229名が卒業できた。最大修得単位数87単位以上修得生徒が90.8%にも及んだ。

資格・検定や技能習得の奨励については、「漢字検定」2級に4.0%、準2級8.1%が合格、「英語検定」2級に25名、GTECはグレード4以上達成が91名、「ビジネス文書実務検定」1級3名、2級33名合格し、学外による学習単位として認定した。他にも全国商業高等学校長協会の「簿記実務検定」2級2名、3級6名合格、商工会議所簿記検定試験3級3名合格した。「講道館柔道」は受検者全員初段を取得、福祉科の「手話技能検定」合格者4級11名5級20名、「知的障害者移動支援従業者養成研修」修了者11名、「全身性移動支援従業者養成研修」修了者13名、「同行援護従業者養成研修」修了者20名等も合わせて75名でている。消防庁救命講習修了者が231名いる。

##### ② キャリア教育

4年制大学進学希望者が60%を超えている現状を踏まえ、3年間を見据えたキャリア教育全体像の改善を進めた。東部学校経営支援センター特別指定校にも指定され、学力とプレゼンテーション力向上などつばさ総合高校の強みを生かした教育活動を推進した。各種補習・講習（放課後・土曜日・長期休業中）、AO入試対策、推薦進路研究、個別指導、プレゼンテーション力向上に関する講演会、職員研修などに取り組んだ。また、他県の先進的な活動に取り組んでいる総合学科高校の視察に職員を派遣し、その成果を職員間で共有するとともに、今後の本校の教育活動にどのように取り入れていくか検討を始めた。1年次の「産業社会と人間」、2年次の「人間と社会」「総合的な学習の時間」、3年次の「総合的な学習の時間」（課題研究）の内容及び指導体制を充実させ、1年次職場訪問、2年次上級学校訪問等の効果的な接続を図った。1年次「職業人インタビュー発表会」3年次「課題研究発表会」を実施し、実践報告書や研究要旨集も発行できた。また、2年次の「キャリア甲子園」では、プレゼンテーションの全国決勝大会に進出できた。

城南進学研究社講師による生徒・保護者向けガイダンスや個別指導、複数の予備校の模擬試験を実施し、大学進学意識の向上を図った。

### ③ 生活指導

全教員で、挨拶、身だしなみ、授業態度等、基本的な生活習慣の確立と学校規律の向上に取り組んだ。身だしなみ指導については、男子のシャツだし、ズボンの裾おり、女子のスカート丈や靴下丈等の制服着装について、改善の必要がある。登校時やのマナーや自転車通学時の交通ルール違反者が多く、近隣の迷惑や指摘を受けることがある。引続き交通安全や登校時のマナーについて指導することが課題である。SNSの不適切使用や校内の物損等があり年次集会等を開催し問題行動の防止に努めた。

養護教諭及びスクールカウンセラーを中心に、生徒一人一人の相談体制の充実を図った。1年次は全員面接を実施し、いじめ、不登校、問題行動等の未然防止に努めた。特別支援教育委員会やいじめ対策委員会を開催し、気になる生徒への対応策を協議し、問題の芽を早期に摘む対応をした。いじめの疑いがあった際には年次集会やアンケート調査等を実施し問題拡大を防止した。特別指導件数は4件に抑えることができた。一方で遅刻者が多く、改善策を講じる必要がある。

### ④ 健康づくり

生徒の健康づくりについては、特別支援教育コーディネーターを中心に、SCを交えた特別支援教育委員会を毎月開催した。精神科専門医の協力を得ながら不登校や発達障害等、課題のある生徒への積極的な関わり方を研修し、実践を行ってきた。いじめ対策委員会は必要に応じて招集し、SCの協力を求めつつ課題解決に向けた具体的な取り組みを迅速に行った。適宜、保健講話、熱中症防止講話等を開催した。

### ⑤ 特別活動

部活動においては、陸上競技部と弓道部が関東大会に出場した。陸上競技部においては、男子走り高跳びで6位入賞を果たした。バドミントン部は工業高校大会団体戦や個人戦で女子は準優勝と3位、男子は個人戦で準優勝となった。東京都高等学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会予選（団体）では都ベスト16に入った。サッカー部はブロック大会で決勝に進出した。女子バスケットボール部は、東京都高等学校女子バスケットボール夏季大会Oブロックで優勝、東京都高等学校商業大会において第3位、東京都高等学校総合学科大会で優勝、女子バレーボール部は春季大会予選を勝ち上がり本大会に出場した。硬式テニス部は都立対抗テニス大会において、男子ベスト32、女子はベスト16に入った。吹奏楽部は東京都吹奏楽コンクールで銀賞、東京都高等学校アンサンブルコンクールで銀賞を受賞した。第18回定期演奏会は、中止を余儀なくされた。ダンス部は羽田・萩中ふれあい祭りや職業能力開発センター大田校技能祭等で熱演し称賛された。福祉部は地域のイベントに多数参加し、近隣の方々から喜ばれるとともに、全国高等学校家庭クラブ連盟主催研究発表大会・兵庫大会、全国産業教育フェア（産フェア）新潟大会において、プレゼンテーションを行い、賞をいただいたことから、大田区青少年表彰・団体部門で表彰された。

その他、多くの部活動が地域小・中学校との交流練習に励むとともに、飛翔祭（体育祭）では平日にも関わらず519名の保護者が詰めかけ、銀翼祭（文化祭）は2,500名の来場者で賑わった。ウイングカップ（スポーツ大会）では、学級ごとに協働する姿勢が養われ、相互に競い合い、高めあう態度も育むことができた。奏翼祭（合唱コンクール）は中止を余儀なくされた。

#### ⑥ 特色ある教育活動

都立高校初のISO14001認証校として、すべての教育活動で環境教育を推進し、省エネルギー、再利用、再資源化に努め、ISOサーベイランスにおいて優良の評価を得た。環境施設見学会は1回実施し、施設見学会とは別にadidasによる環境出張授業を実施した。高校生環境サミットin Tokyoも今年度で第16回を数え、充実した内容の発表とともに、大学生、民間企業、NPO団体等を含めたポスターセッションでは活発な意見・情報交換等が展開されるなど交流が深まった。広報を工夫することにより、来場者を昨年より増やすことができた。これまでの環境活動が評価され東京都教育委員会よりオリンピック・パラリンピック教育・環境部門アワードを頂いた。

#### ⑦ 募集対策活動

本校の特色及び総合学科教育の理念・特色を、学校説明会、出張授業、中学校や塾訪問などを通して積極的に発信し、募集対策の充実を図った。特に校内の見学会・説明会の回数を年間3回から5回に増やすとともに、生徒による説明や案内を行い、学習活動の様子や作品を積極的に公開するなどして、生徒の生き生きとした姿を伝えた。学校ポスターや学校案内の表紙にも生徒作品を採用した。また、HP以外にも、SNSを導入し、ツイッター（公式）により、生徒の活躍等をタイムリーに紹介した。

推薦入試においては昨年と同水準の1.94倍を確保し、学力検査においては前年度の0.97倍から1.25倍へとV字回復を達成した。次年度も組織的な募集対策活動を更に充実させ、高校授業料無償化制度による私立高校人気の高まりに対抗できる体制を構築する必要がある。

#### ⑧ 学校経営・組織体制

開校以来18年目を迎え、系列やキャリア教育の在り方等、本校のこれまでの総合学科としての課題を整理するとともに、学校の教育活動全般の課題解決に向けた検討を行い、再編した系列、「美術・デザイン」「国際・コミュニケーション」「科学・技術」「スポーツ・健康」「生活・福祉」が充実してきた。希望進路に応じた自分だけの時間割で学んでいくことを指導した結果、科目履修相談期間は活況を呈した。全学級、二者及び三者面談等によりの確な履修指導と進路指導の充実を図った。

新学習指導要領への対応として、学校のグランドデザインを設計し、育成する資質・能力を「つばさスキル～課題解決能力・ボーダーレスな協働～」と名付けた。各教育活動において重点的に育成する項目の一覧表も作成し、教育活動の充実と活性化を図っている。

⑨ 防災教育

本校は、湾岸・河岸に位置する環境であるため、防災教育を推進する必要がある、防災教育の充実を図った。全校生徒が津波を想定した避難訓練を実施するなど、特色ある防災教育を展開している。2年次は地域消防署及び蒲田消防団第五分団と連携した学校での宿泊防災訓練を実施し、自助・共助・公助の精神を学び、消防庁救命講習修了証を取得した。

⑩ その他

第8回東京都立総合学科高等学校教育活動成果発表会に総合的な学習の時間（課題研究）で参加し、3年次女子生徒が「将来や夢との向き合い方を学んだキャリア教育」の演題で調査・研究し、本校の3年間のキャリア学習の成果を披露した。

(2) 重点目標への取組と自己評価

(◎：大幅達成、○：達成、△：やや未達成、×：大幅未達成)

NO	項目	内 容	評価
1	学習指導	学力向上推進プランの実行と学力向上 自学習の充実	○
		漢字検定や GTEC 等の実施を通じた国語力や英語力の向上	△
		各教員が長期休業中を中心に一人10時間以上の補習・講習の実施	△
		各種資格受検や技能習得の奨励	△
2	キャリア教育	本校のキャリア教育全体像の策定	○
		「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の発表会実施	○
3	特別活動	各種行事の充実 対外試合の結果等、部活動の成果	△
		「つばさ総合高校としての部活動」の検討と共通理解作り	○
		部活動と規律と自学習のバランス良い高校生活	△
4	環境教育	ゴミの分別等、ISO活動の成果、高校生環境サミットの充実	○
		「全教員の環境授業年1回以上」の取組と節電対策等の実施	○
		環境授業の充実、カーボン・オフセット等の新たな取り組み	○
5	家庭・地域	全学年全生徒対象年1回の三者面談・保護者面談	◎
		部活動地域貢献の拡充 地域小中学校等との連携	◎
		PASTAとの連携	◎
6	募集対策	学校説明会での生徒の活動を紹介する取組	◎
		入選倍率を推薦2.0倍、学力検査1.2倍以上	○
7	経営・組織	防災教育を推進する学校の円滑実施と防災対策の充実	○
		系列や教育課程の一層の充実	○
		事務管理・運営の効率化と安全で快適な学校環境の維持	○

2 次年度以降の課題と対応策

課 題	状 況	方 策
「キャリア教育」の充実	<p>3年間を見通したキャリア教育の充実を進めている。</p> <p>「探究プロジェクトチーム（キャリア教育部・教務部・年次各代表）を立ち上げ、キャリア教育プランを計画している。</p>	<p>「産業社会と人間」「人間と社会」「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」を中核として、すべての教育活動で行うキャリア教育を充実させる。</p> <p>課題研究の指導法を確立し、教職員間で共有する。</p> <p>プレゼンテーション指導の教職員研修や、classiなど学習クラウド活用に関する研修会を計画し実施する。</p>
大学進学希望者への対応	<p>大学進学希望者への受験指導の充実を進めている。</p>	<p>夏期講習の内容を充実させる。</p>
自学習習慣及び学力向上	<p>自学習習慣が定着を進めている。</p> <p>小テスト・宿題・課題の頻出に努めている。講習・補習を実施した。</p> <p>スタディーサポート、漢検、GTEC、模擬試験等を実施した。</p>	<p>朝学習を充実させる。スタディーサポートを有効活用させる。</p> <p>模擬試験を活用させる。各種資格・検定受験の機会を増やす。</p> <p>読書活動を推進する。フィードバックシステム及びclassiの稼働率を向上させる。</p>
基本的な生活習慣の確立	<p>遅刻指導を実施しているが、十分な成果は得られていない。</p>	<p>年次、生徒部、教務部が連携し、実態を把握する。遅刻しない意識を高めるため、生活指導方針を示し実践させる。</p>
特色ある教育活動の充実（環境教育・その他）	<p>ISO14001 認証校について、ISO 委員会等、関係する生徒の意識は高いが、一般生徒への浸透が不十分である。校内美化や省エネルギー等に、一層積極的に取り組む姿勢・態度を求めたい。</p>	<p>環境授業を充実させる。魅力ある高校生環境サミット・講演会・施設見学会を企画し、一般生徒の参加を奨励する。ごみ処理や清掃の徹底等、美化意識の高揚と省エネルギーを推進する。</p>
特別活動の活性化	<p>生徒の主体的活動が不十分である。</p> <p>部活動や学校行事の充実化と地域貢献の一層の活性化を図り、自主・自律・自治力を向上させたい。</p>	<p>部活動の実績を向上させる。学校行事への集客数を向上させる。</p> <p>各部活動に年1回の地域貢献を奨励する。生徒主体の企画・運営による各行事・部活動・委員会活動の活性化を図る。</p>

総合学科教育理解の促進	総合学科教育の理念の共通理解・共通実践が不十分である。	校内研修を実施する。総合学科教育成果発表会、研究大会、学校視察、都総研への参加を奨励する。
募集対策の改善	教職員全員で総合学科高校の強みを理解し、広報活動を進める必要がある。	学校見学会、学校説明会、出張授業、学校訪問、学習塾訪問等の内容を充実させる。HPをリニューアルし、頻繁に更新を行い魅力的な情報を発信する。
家庭との連携	全年次3者面談を実施している。手紙や電話だけでは連絡が取りにくい家庭もある。	保護者会への参加を奨励する。Classiの活用を定着させ、家庭連絡、情報提供に役立てる。
危機管理、防災	定期的な避難訓練を実施している。地域と連携した宿泊防災訓練を実施している。	様々な災害を想定した避難訓練を実施するとともに、地域と連携した防災訓練も計画する。消防庁救急救命講習修了証を生徒全員に取得させる。